

成果の説明書

(氏名) 福間聡	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>A. 教育</p> <p>(1) 初年次ゼミ (前期)</p> <p>大学で学ぶ上で必要なアカデミック・スキルを新一年生が体得できるよう心がけた。とりわけ、テキストの批判的読解、文献・資料の検索、レポートの書き方、ディベートの流儀を重点的に指導した。</p> <p>(2) 法哲学/現代社会と法 (前期)</p> <p>J.ロールズの正義論の特徴を過去から現在の正義論の系譜を踏まえながら講義した。受講者が現代社会におけるロールズ正義論の意義を理解し、今日の社会的諸問題を哲学的に考察する能力を身につけられることを本講義は目標とした。講義中、受講者に質問をすることで、インタラクティブな授業となるように努めた。</p> <p>(3) グループ研究 (後期)</p> <p>公共的な諸問題について参加者と共に議論 (ディベート) し、これからの日本のあるべき姿について考察する力を受講者が身につけることができるよう本講義では努めた。ディベートを行うに当たって、単にメリット・デメリットの観点のみならず、哲学・倫理的な概念分析を踏まえた議論の仕方を受講者が体得できるように指導した。</p> <p>(4) 公共哲学/現代社会と法 (後期)</p> <p>「公共性」にまつわる諸問題を考察することを通じて、我々にとって望ましい公共的な生とはどのようなものであるべきかについて、受講者が自分の考えを持つことができるようになるように努めた。講義中、受講者に質問をすることで、インタラクティブな授業となるように心掛けた。</p> <p>(5) 倫理学 (後期)</p> <p>本講義では、「善の根拠」「トローリー問題」「快楽機械」「道徳的運」「動物の権利」「刑罰の必要性」「格差の正当化」「移民の受入」「正戦論」といった問題群を受講者と共に検討した。受講者が、倫理的な問題に対する自分なりの考えを持つことができ、他人に自分の考えを適切に説明することができるようになるように試みた。講義中、受講者に質問をすることで、インタラクティブな授業となるように心掛けた。</p> <p>(6) 演習 I (通年)</p> <p>公共哲学・倫理学に関わる文献を批判的に吟味することを通じて、ゼミ生たちが現代日本の諸問題に対して自分自身の見解を持つことができるよう指導した。</p> <p>B. 研究</p> <p>(1) 論文</p> <ul style="list-style-type: none">・福間聡「正義における比較アプローチと契約論アプローチ——「公平な観察者」と「公正としての正義」の問題」『経済セミナー』No. 686, pp. 39-44, 2015年9月・福間聡「第9章 価値と倫理」『現代哲学キーワード』有斐閣, pp. 181-201, 2016年1月	

・福間聡「国家の正統性について——ロウルズ的な視座から」『産業研究』第 51 号第 1・2 巻, pp. 55-70, 2016 年 3 月

(2) 学会発表・研究会報告

・「所有権と領土権——国家の正統性についてのロウルズ的視点からの一考察」哲学会第五十四回研究発表大会ワークショップ「正義と所有」（東京大学本郷キャンパス），2015 年 10 月

(3) 科学研究費

・科学研究費助成事業基盤研究（C）「働くことの意味と所得保障政策との規範的な関連性の検討」研究期間: 2014 年 4 月 - 2017 年 3 月 代表者: 福間聡

C. 社会貢献

(1) 非常勤講師

・新潟大学経済学部にて、「経済学特殊講義」（集中）を講義した。

3 次年度以降の計画・抱負

来年度も引き続き、「働くことの意味と所得保障政策との規範的な関連性の検討」というテーマを軸に、研究・教育活動に邁進したい。